

# 「リーダー」・他者を巻き込むパワー

## 1. 木原先生のリーダー論

右掲は広島の木原先生が社内の方々に毎日発信されている「デイリー・メッセージ」の10月29日号です。先生は、10年前に癌で胃を全摘され、去年は肝臓癌が発見されて治療に取り組みながら、社員さんにメッセージを送り続けておられます。この日は、リーダー論を取り上げて

- ・ベースに「素直さ」と「謙虚さ」の2要素が備わっている
- ・その上に「前向き」、「利他心」、「反省」の3要素が必須と言われています。

ベースの「素直さ」や「謙虚さ」は、自分では分からないもので、他人から見た評価であり「人格」の骨格をなすものです。他人の評価という点が非常に重要なのです。自分では、素直で謙虚な性格と思っ

ていても、他人、特に、利害関係のある方からは率直な意見を聞く事はないので気づく機会が少ないのです。

次に、「前向き」、「利他心」、「反省」の3要素ですが、これは、自分でも気づき易いものですが、それでも、他者の見方が違う場合があるので要注意です。まず、「前向き」ですが、ベースには健康でなければなりません。その為には、健康管理が大切です。特に、精神面での健康管理が重要で、例えば、家族や友人との間でうまく行っていないと気になるので、公的な場面の行動にも影響します。余計なトラブルを作らない事が大切です。次に、「利他心」ですが、よく「Win-Winの関係」と言いますが、故船井先生(船井総研の創業者)は「Give&Giveの精神」とおっしゃっていました。「得る」よりも「与える」という積極的な精神が大切とおっしゃっていたのです。その背景に「報恩の原則」という物が働き、多くの方は「与えられると借りを返す」という心理になるのです。しかし、これは、最近、怪しいものになっています。

私は、最後の「反省」が特に重要と考えています。この事も故船井先生は、「1日働けば、1日分の食い扶持と明日への蓄えが残る」とおっしゃっており、毎日の売上と儲けを計算して終わるようにと話されていました。船井総研の日報報告には、当然、今日した事柄を書く欄があるのですが、最後に、「本日のルール化」という欄があり、ここが「明日への蓄え」になっています。これをキチンと行い、それを個人で管理して、他のお客様で「今月のトピックス」と題して、コンサルの初めに他社の動きを話されていた方がおられました。この方は、本もたくさん出版され、お客様も多くなり、早く役員になられました。

## 2. 近江商人の教え

このように、「反省」という点で毎日の売上や利益にどれ位関心をもっているかが大切です。近江商人の教えに「毎日の儲けを計算してから終れ！」という物があります。一日の儲けの「反省」をする事が大切で、反省があるから「次の対策」が生まれるのです。コンピュータで計算される「売上」と「粗利」そして「受注残」などを把握する事から始めて、その数字を目標予算との対比で、実働日数の経過分を稼げているかを把握する事が大切です。

そして、この繰り返しで各自が単月黒字を達成して、さらに、集合体として会社も単月黒字になり、それが続けば、自ずから決算が黒字になるのです。この毎日の儲けを把握する事が基本であり、例えば、実績的に今日は赤字であっても、明日への期待感が高まるような仕掛けが残ったなら、それも重要な事柄なのです。「毎日の儲け」と「明日への蓄え」の両輪なのです。

DAIRY MESSAGE ~デイリー・メッセージ~  
平成28年 10月29日(土) 木原 伸雄 No.7136

リーダーが書くべき三つの姿勢(小吉一康説)

- 「散歩のついでに富士山に登った人はいない」と言われるようにポツとして優れたリーダーになれる訳はない。リーダーの持つべき資質について松下幸之助さんは「素直さ」と「謙虚さ」をあげている。素直さも謙虚さも持ち合わせておらず、自分の意見に凝り固まって他人の意見を聞けない人は、そこで成長が止まり、真のリーダーにはならない。
- 「素直さ」と「謙虚さ」はリーダーの資質の基礎の部分であり、その上に「前向き」、「利他心」、「反省」の三つの姿勢を築く必要がある。松下幸之助さんは「6割やれると思ったらやる」と決め、残りの4割の部分は「努力と熱意でカバー」と伝えられる。6割という数字はリーダーにより変わるとしても、チャレンジする姿勢を持つことが人切だてと教えている。
- チャレンジを恐れる後ろ向きなリーダーは「やれない理由ばかり」敷いて一歩が踏み出せない。「前向き」は基本精神。「利他心」とはお客さまの周りにいる人、社会のことを第一に考えることである。お客さまに良い商品・サービスを適正価格で提供するということ。ビジネスの基本を守ること。良い仕事をすること。自分も喜めだすべての人を利すること。
- 諺語に「吾、日に三たび吾が身を省みる」とあるように「反省」はビジネスに不可欠。反省しない人はうまく行かなかったときにその原因を追究しない。そして仕舞にして失敗の原因を他に求めがち。反省するためにはそのベースとして正しい考えを持ち、それに照らして自らの行動を反省すべきだ。「前向き」「利他心」「反省」を身に付ける努力が大切である。

### 3. 個人も反省が大切

この考え方は、個人の場合でも同じです。日常の事柄に追われて過ごしているのは、誰しも同じなのですが、例えば、日記やブログなどで反省を書いておられるか否かで日々の積重ねで格差がつくものです。「今日一日が終わってお酒がうまい」という満足感は居酒屋などの風景を見ても良く分かりますね。職場やサークルあるいは友人・家族とワイワイガヤガヤとされている風景は日本的でいい物です。「明日への英気を養う」と言いますが、仲間などと談笑し合ってパワーを取り戻すのは良い方法と思います。

しかし、酒に溺れるという言葉がありますが、嫌なことを酒を飲む事で解決する事は程度問題で、中には、酒に溺れてしまう方がいらっしゃるのです。これでは、酒代が嵩み、懐に大きく影響を与えるばかりになってしまいます。お給料は決まった額なので、家賃や電気・ガス・水道・電話・保険などの毎月必要な経費を差し引いた分が実質的な可処分所得なのです。このうち、明日への蓄えとして幾らかでも残るようにして、ボーナスも同じように考えることで、本当の意味で、ひと月に使える金額が出て来るのです。

単純に、これを日数で割れば「一日あたり幾ら」という金額が出るのです。この「一日幾ら」でも不意な支出に備えて少しでも残せれば、健全な家計が運営できるのです。「もう、使える金がない」という方もいらっしゃるかも知れませんが、ぜひ、この考え方を参考にされて、毎日の必要額を設定して、その額と実際との対比を行って「反省」して頂ければと思います。

### 4. リーダーと個人資産

木原先生のリーダーの必須5要素(素直さ、謙虚さ、前向き、利他心、反省)をテーマにして、私なりの意見を書いて来ましたが、本当の意味で「リーダーって、何か」を考える必要があります。組織にいる人たちを「幸せ」の方向に向けて引っ張る事がリーダーの必須要件と考えると木原先生の5要素だけでは足りないのです。その不足部分は、人によって違って来るものでありますが、「幸せ」の方向に向かうにもいろんな選択肢がある中で自分が「これだ！」と確信を持てる事が望まれる要素の一つと言えます。

「確信」すなわち「何か不測の事が起こったら、自分の甲斐性で賄う」という覚悟が重要です。例えば、会社として大きな買い物をする時に個人資産で十分に補えるならば、迷わずに決める事が可能になるのです。この「決める」という要素が重要であり、それを補完するのが個人資産なのです。給料で補うには、相当な高給取でなければなりません、案外、高給な方は蓄えも多いのですが「使えない」という方が多いのです。いわゆる「ポケット・マネー」のゆとりと言うものではないのです。これは、大きな事でゆゆしき状況なのです。

最近の政治を見ていると東京都の卸売市場の問題でも誰一人「責任」を取ろうとしないのです。確かに、皆で決めるのが民主主義の基本なのですが、その決める会議で「長」という役割の方が見えないのです。いろんな「長」が集まっている感じなので、誰かが示す案に流されやすいのです。だから、中途半端な結果になってしまうのです。逆に、今話題のトランプ氏や橋下氏のような方は、私財の裏付けがあるので、思い切った案を出すことが可能なのです。

こういう意味で、私は「リーダーには決める力が必要であり、その根拠となる個人資産の有無が重要な事だ」と考えているのです。幾ら、東京都の高級役人であっても個人資産を投げ出す覚悟はないのです。その点、橋下さんや河村さん、小池さん、またまた、トランプさんなどは、報酬を減額するのに躊躇していないのです。この覚悟が他者を巻き込むパワーになっていると思うのです。私も個人資産を回復させて、他者を巻き込むパワーを強化したいと思っています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> あります！】